

# NEW ARRIVAL!

取材：山中弘行 撮影：松川泰治

# L.R. Baggs ALIGN SERIES

エル・アール・バッグス/  
アライン・シリーズ

革新的ギター製作家としてキャリアの幕を開けたL.R. Baggs創設者のロイド・バッグス。80年代初頭にアコースティック・ギター用ピックアップ開発をはじめて以来、今や同ブランドのピックアップやプリアンプはワールド・スタンダード。今回、その技術の粋を結集したALIGNシリーズから、4種類のアコースティック・プレイヤー向けの専用ペダルが登場。高内" HARU " 春彦<sup>(g)</sup>と池田達也<sup>(b)</sup>がその実力を体験した。

## L.R. Baggsならではのアイデアとクオリティを追求したアコースティック・プレイヤー専用ペダルが登場

## アコギ・フルアコ・ベースでIMPRESSION!



### ACTIVE DI

アクティヴ・ディー・アイ  
All-Discrete Active DI  
with Pedalboard-friendly Functionality



### SESSION

セッション  
Saturation & Compression EQ



### EQUALIZER

イコライザー  
6-Band EQ  
and Anti-feedback Notch Filter



### REVERB

リヴァーブ  
Proprietary Reverb Tailored Specially  
for Acoustic Instruments

## 「アコギ」と「フルアコ」で試す「ALIGN SERIES」



### Checker

## 高内" HARU " 春彦

### Haru Takauchi PROFILE

1954年生まれ。15歳でギターを始め、中学時代にジャズを聴くようになる。18歳から2年間渡辺香津美に師事。1980年に渡米すると、ウェイン・ショーターやジャコ・パストリアス、マイク・スターン、ジェフ・アンドリュース、スタンリー・タレンティンらと共演。85年にファースト作『ナンバー・セブン』をリリースし、2001年の帰国後も、アメリカと行き来しながら精力的な活動を展開。現在、CD『ハルアコ (HARUACO)』(LINUS Production) が好評発売中。

今回はアコースティック用のエフェクターということで、クリス・マーティン4世が社長に就任した80年の記念モデルで、マーティン・ミュージアムに納められていたギターを持ってきました。現在は、L.R. Baggsのピックアップを付けています。そして1970年製のギブソンL-5も持ってきましたので、その両方(アクティヴのアコースティック・ギターとパッシヴのエレクトリック・ギター)で試奏してみます。

まずACTIVE DIから弾いてみましょう。インプット・インピーダンスが2.2Megohmsと大きく設計されていますから、アクティヴのエレアコやパッシヴのアコギ、そして通常のエレクトリック・ギターまで幅広く対応し

## 「レコーディング・スタジオにある機材のような高品位で上品な音質と音色」



### ACTIVE DI

価格：オープン・プライス  
(実勢価格：¥21,000前後+税)

ディスクリット回路を使用し、広範囲の信号にマッチする高いヘッドルームを持ち、ペダル・ボードへの組み込み、単体での使用、そしてライブからスタジオ・レコーディングにまで対応できる品質。楽器交換時に便利なミュート・スイッチも搭載。まさにアコースティックにもエレクトリックにも使える究極の高品位な技術の集大成とも呼べるDI。

**SPEC** Input Impedance : 2.2Megohms Preamp Gain : 0, -10, -20dB Input Level : -25dBV ~ +8.5dBV Output Level : +8.5dBV Output Impedance : 470 Ohms DI Output Impedance : 620 Ohms 電源 : 9V DC 100mA 9V電池駆動時間 : 約180時間 サイズ : 82(W)×64(H)×130(D)mm 重量 : 433g



### SESSION

価格：オープン・プライス  
(実勢価格：¥22,500前後+税)

一流のレコーディング・スタジオのサウンド・プロセッサーをライブ機材として集約したクオリティ。経験豊かなオーディオ・エンジニアが生み出すリッチなアコースティック・ギター音の秘密はサチュレーションの使用。その回路を小さな筐体に搭載した本モデルは、まさにアナログ特有の温かさをライブでも演出する“魔法のペダル”だ。

**SPEC** Input Impedance : 5.1Megohms Preamp Gain : -14dB ~ +20dB Input Level : -25dBV ~ +2dBV Output Level : -5dBV Output Impedance : 220 Ohms DC Power Consumption : 24mW(Max 9V) 電源 : 9V DC 100mA 9V電池駆動時間 : 約200時間 サイズ : 82(W)×64(H)×130(D)mm 重量 : 449g



### EQUALIZER

価格：オープン・プライス  
(実勢価格：¥22,500前後+税)

定評あるPara Acoustic DIの回路に基づいて設計され、独自のハイ・グレードFETゲイン・ステージと、どんなピックアップ信号にも豊かさやバランスの良さを与える高品位なイコライザー。アコースティック・ギター用ピックアップを知りつくしたL.R. Baggsならではの最も有効な周波数を設定した6バンドは現場で実力を発揮する。

**SPEC** Input Impedance : 5.1Megohms Preamp Gain : -6dB, 0dB, +6dB Input Level : -25dBV ~ +3dBV Output Level : -5dBV Output Impedance : 470 Ohms DC Power Consumption : 24mW(Max 9V) 電源 : 9V DC 100mA 9V電池駆動時間 : 約110時間 サイズ : 82(W)×64(H)×130(D)mm 重量 : 451g



### REVERB

価格：オープン・プライス  
(実勢価格：¥22,500前後+税)

アコースティック・ギタリストが求めるナチュラルなボディ・ダイナミクスと温かさのあるリヴァーブ。本モデルはウェット信号とドライ信号をシームレスに統合し、元の信号を劣化させることなく、楽器に内在する自然な声をアナログEQでアジャスト。トーン・コントロールで多様なサウンドを生み出す、まさにオーガニックな高品位リヴァーブ。

**SPEC** Input Impedance : 2.2Megohms Preamp Gain : +6dB Input Level : -25dBV ~ +5.7dBV Output Level : +2.6dBV Output Impedance : 220 Ohms DC Power Consumption : 450mW(Max 9V) 電源 : 9V DC 100mA 9V電池駆動時間 : 約11時間 サイズ : 82(W)×64(H)×130(D)mm 重量 : 451g

ています。接続はインとアウト、そしてXLRをミキサーに繋いでみました(このXLR端子から48Vのファンタム電源を得る) PadはXLR出力の調整で、通常は0dBでいいと思いますが、楽器のゲインの大きさに応じて、-10か-20に調整します。Lift/Gndは極性、Phaseは位相を切り替える機能です。Thru/Outでスルーか、アクティブかの出力を切り替えます。音質は上質なプリアンプの印象で、エレアコを繋いでもフルアコを繋いでも信じられないくらい素晴らしい音質と音色です。これ1台でアンプを持たずにギグにも行けますね。もちろんスタジオ・クオリティ。あとフット・スイッチでミュートができるのは、ギター側のケーブルの抜き差しがある現場ではとても便利な工夫だと思います。

次にSESSIONを試してみます。これはもうスタジオ・レヴェルの高品位でナチュラル



なコンプレッサーですね！

たとえば、コンプレッサーを使わずにアコギをストロークして、それから単音を弾くと、どうしてもストロークのほうが大きくなり、単音が弱くなりますが、このコンプレッサーを使うと、ピッキング・ダイナミクスへの反応が良いので、単音で弾いた音やハンマリングなどの音が埋もれなくなります。あとサチュレーションはスタジオ・エンジニアが使う機能で、倍音や低音域、分からないくらいのレヴェルでの歪み、奥行きなどを調節できます。なんとも上品で気持ちのいいサウンドですね。

そしてEQUALIZERです。+6、0、-6dBの入力ゲイン・セレクターを備えて、40~300Hzの周波数帯に対応するノッチ・フィルターも搭載した6バンドのEQ。小さなツマミは左から85、350、700、1.6K、4.8K、10K(Hz)。ギターの1弦3フレットのAが440Hz、6弦開放のEは82Hz、1弦22フレットのDが1.174KHzですから、ギターの実音のほぼ全域と倍音までをカバーする周波数帯



ですね。これらを±9dBの幅で調節できます。中央段の左にあるHpfはハイパス・フィルターで、必要に応じて40、80、120Hzをカットできます。入力ゲインを合せて、好みの音色をEQとHpfで作って、それからノッチ・フィルターでフィードバックを抑える感じですね。EQのツマミが小さいので、事前にしっかり調整しておくのがいいですね。

最後にREVERBを試してみます。リヴァーブ・ノブで量をコントロールして、トーン・ノブでは掛かる音域を調節し、ディケイ・ノブで掛かり方を調節します。リヴァーブ音が揺れるような感じですね。僕らが若い頃のリヴ

# L.R.Baggs ALIGN SERIES

アープを思い出しました。当時はカッコよかったのですが、その後あまり耳にしなくなりましたから、とても懐かしい感じがします。近年はカート・ローゼンウィンケル(g)が使いはじめて、こんなモジュレーションの使い方がカッコよくなっていますよね。もちろん音質は素晴らしいです。アンプ1台でも空間の広がり表現できます。アコースティック

ク用ではありますが、エレクトリック・ギターをアコースティックな感じで鳴らしたい！ 清纯派なギタリストにもお勧めできますね。

このALIGNシリーズは、木目をプリントした外觀で、まさにアコースティックなイメージです。どのモデルもとっても高品位で上品な音質と音色などが素晴らしくて、まるでレコーディング・スタジオにある機材のよ

うです。4種類全部を使うとすれば、ギター側からSESSION、EQUALIZER、REVERB、ACTIVE DIの順番で繋ぐのが一般的だと思います。この場合、各エフェクターのゲインをじょうずに調整することが大切です。もちろん、どれか1台使っただけで、音質が向上します。ただ、実際に試してみると僕は全部使いたくなりました(笑)

## 「ベース」で試す「ALIGN SERIES」

### 「音に息吹が吹き込まれていく かのようなDIとアルコでの REVERBは特にお薦めしたい」

文：池田達也 撮影：編集部

#### ACTIVE DI

ライブやコンサートにおいては、ミュートができるか否かは気になるポイントですが、"ミュート・スイッチの付きのDI"というだけで利便性を感じます。Thru/OutスイッチをThru側にすると、ミュートの操作に関わらず、常にアウトプットから楽器音が出力されるので、チューナーを接続すればXLRアウトをミュートしたままチューニングが行なえます。色付けなくストレートに伝送しつつも、音に息吹が吹き込まれていくかのように、定番とされるDIなどと比較しても甲乙つけがたい印象です。ウッド・ベース(以下、WB)だけでなく、エレクトリック・ベースでも好感触が得られましたから、様々な楽器のプレイヤーにお薦めしたい次世代のDIです。

#### REVERB

原音を変化させることなく上品な残響が得られ、特にアルコで弾いた際の心地良さは、まるでクラシック音楽専用のコンサート・ホールで弾いているかのようです。一方、ピチカートにおいても豊かな余韻が得られるので、自分の楽器がグレード・アップしたかのような錯覚に捕われました。リヴァーブをはじめとする空間系エフェクターは、設定によってオン/オフ時の音量が違って感じられる場合があるのですが、ストップ・ボックス型のリヴァーブとしては珍しくヴォリュームが搭載されていますから、音量差を揃えることができます。また、ソロ時に用いるのであれば、より際立った効果を演出することも可能となっています。

#### Checker

### 池田 達也

Tatsuya Ikeda PROFILE  
MALTA(sax)や寺井尚子(vin)のグループの参加を経て、現在は自己が主宰する「たつやせつしゅん」をはじめ、さまざまなセッション、スタジオ・ワークなどで活躍中。ウッド・ベースとエレクトリック・ベースの双方のみならず、アレンジやサウンド・プロデューサー、さらにはMCや芝居！？ 元こなすマルチ「ベース・プレイヤー」として、幅広い分野での積極的な活動を行なっている。  
<http://www007.upp.so-net.ne.jp/tatsuya-bass/>



#### EQUALIZER

6-Band EQの最低が85Hzとなっていたり、High-pass filter(指定の周波数より上の帯域を通すフィルター)が装備されているなど、当初はアコギに特化した製品なのかと思ったのですが、音量を上げても低域がスッキリするので、低域が溜まりやすい会場などでは重宝するでしょう。各ツマミはとてもデリケートな設定となっていて、緻密なサウンドメイクが行なえるようになっている一方、シチュエーションに応じたイコライジングは、時間とコツを要しますから、時間が限られている場合は、ベース・アンプのEQとの併用がお薦めです。EQのオン/オフでアルコ/ピチカートの音色や音量を整えるにも有効です。

#### SESSION

WBのピエゾ・ピックアップは音の張よかさや円やかさに欠けるのですが、Saturateを上げていくことによって、その欠点が補われ音の存在感が増していき、単なるEQの操作では得られない効果を実感できます。一方、Comp EQは開放弦の音の暴れや音域による音量差などを揃えてくれるのですが、どちらも上げすぎると不自然な感じに聴こえ、WBならではの生々しさが損なわれる場合もありますから、過度な使用は控えるようにしましょう。なおアコギに比べ、WBやエレクトリック・アンプ・ベースは出力が大きいですから、最初にclipインジケータを見ながら適切なgainの設定を行なうことも併せてお薦めします。